

「シロクロ」になりました。

**突**然ですが、今月号から広報すずが「シロクロ」になりました。表紙を含むすべてのページが「シロクロ」になったのは昭和62年度以来。理由はお金の都合です。市の収入の約8割が国や県の仕送り(交付税や補助金など)でまかなわれ、独自で得られる市税などの収入は、わずか2割しかなく、こうした依存体質は今年度も変わりありません。また、追い討ちをかけるように昨年度から国の「三位一体改革」が始まったことで、さらに収入が不安定になっています。一方、地域経済の先行きは不透明で、収入の増加が見込めないなか、借金の返済額は増加し、今後5年間の試算では必要な額に対し多額の収入不足が見込まれます。これまでは不足分を貯金(財政調整基金)で補ってきましたが、それも18年度には底をつき、危機的な状況となることが予測されます。そこで市では今年4月から新たに「行財政改革推進室」を設け、さまざまな事業の見直しや、どうすれば効率よく行政サービスを提供できるか検討を進めています。例えば、財政面では市税収入の確保や受益者負担の適正化、土地や建物など市有財産の処分、人件費の抑制、事業の重点化の推進、補助金の見直しや公の施設の整理など。また、行政面では民間活力の利用、組織の改革、市が出資している法人の改革など、それぞれに数値目標を設け、すぐにできる改善策とともに中長期的な改革に取り組んでいきます。計画の骨組みは今秋までにまとめる予定ですが、日ごろの節約とあわせ「シロクロ」はその前の一歩となります。カラーでお伝えできないのは申し訳ありませんが、健全な財政運営に向けて、みなさんのご理解とご協力をお願いします。



■行財政改革推進室 ☎(82)7727  
 ■総務課広報担当 ☎(82)7712

宗女地区を通過するのと鉄道。

記憶のなかを  
 鉄道は行く。

澄んだ青、輝く緑。  
 半島が放つそんな色とぴったりの  
 オレンジ色に包まれた車体。  
 「先を急がず、景色を楽しみなさい」  
 とでも言うように、  
 のんびりと富山湾沿いを走る。  
 しかしその光景はもう「過去」のもの。  
 蛸島まで鐵路が設けられて40余年。  
 のと鉄道の六水と蛸島を結ぶ  
 全長61・1キロの能登線が3月31日、  
 利用者の減少に歯止めがかからないことから  
 廃止されました。  
 昭和39(1964)年、奥能登の  
 新たな交通機関として誕生した能登線。  
 人々の夢や希望を乗せ、  
 また、出会いと別れを見つめ続けてきました。